

今日は、朝からサルを追い払っていた。サルのお目当ては「栗」まだまだイガは青々としている。茶色になるまで待てない。そんなわけで、今朝は鳥坂でロケット花火を持ちながら登校する子どもを迎えていた▼8時10分過ぎになると、放送委員の子が「朝の読書が始まります。急いで教室に戻りましょう。」と放送で声をかけてくれる。運動場で遊んでいる子どもは教室に戻っていく。その子どもを見送るのが私の日課。ここまで長い前置▼今日は、左手にロケット花火の空袋を二つ持っていた。何かを持っているのを見つけた子どもは、たいてい「それは何？」と興味を持って聞いてくれる。2年生の男の子が寄ってきて興味津々で手の中をのぞきこむ▼手のひらを開けて見せながら「これは、ごみなんだよ」彼は、その2つのごみをのぞきこんだかと思うと、2つのごみを右手と左手にそれぞれ取り上げた。よく見たかったからではない。彼は、そのごみを自分のごみ箱に捨てようとしてくれたのだ▼それに気がついたので、「ゴミ箱に捨ててくれようと思ったの？」彼は静かにうなづく。「ありがとう大丈夫だよ。先生が捨てるから」そう言いながら、そのごみを彼の両手からそっと取り上げた。そして、一言付け加えた。「あなたのその気持ちがとてもうれしいよ。あなたはきっと幸せになれるよ」彼はまた静かにうなづいて笑顔で昇降口に走っていった。